



72 インチ側面排出モア

60 インチ側面排出モア

グラントマスター 3320 および 3280-D 用

Model No. 30368—Serial No. 250000001 and Up

Model No. 30366—Serial No. 250000001 and Up



警告

カリフォルニア州

第65号決議による警告



カリフォルニア州では、ディーゼル・エンジンの排気ガスやその成分には発癌性や先天性異常の原因となる物質が含まれているとされています。

もくじ

はじめに	2
安全	3
安全な運転のために	3
安全にお使いいただくために：	5
TORO からのお願い	7
安全ラベルと指示ラベル	9
仕様	10
組み立て	10
付属部品表	11
デフレクタを取り付ける (モデル30368のみ)	11
昇降アームをトラクションユニットに取り付ける	12
昇降アームをカッティングユニットに接続する	12
PTOシャフトをカッティングユニットの	12
ギア・ボックスに接続する	13
グリスアップを行う	13
運転の前に	13
ギア・ボックスのオイルを点検する	13
刈り高を調整する	14
カッティングユニットのピッチを調整する	15
スキッドの調整	15
芝削り防止ローラを調整する	15
ローラを調整する	16
フロー・バッフルを調整する	16
フロー・バッフルの位置調整を行う	17
カッティングユニットのミスマッチを修正する	18
運転操作	18
サイド・ディスチャージの使い方	18
運転のヒント	19
保守	19
推奨定期整備一覧表	19
ベアリングとブッシュのグリスアップ	21
カッティングユニットの取り外し	21
トラクションユニットへのカッティングユニ	22
ットの取り付け	22
キャスタ・アームのブッシュの整備	22
キャスタ・ホイールとベアリングの整備	23
ブレードの変形を調べる	23

ブレードの取り外しと取り付け	23
ブレードの点検と研磨	24
カッティングユニットのミスマッチを修正する	25
駆動ベルトの交換	26
デフレクタの交換	28
Toro 一般業務用機器の品質保証	28

はじめに

この説明書を読んで製品の運転方法や整備方法を十分に理解してください。オペレータや周囲の人の人身事故や製品の損傷を防ぐ上で大切な情報が記載されています。製品の設計製造、特に安全性には常に最大の注意を払っておりますが、この製品を適切かつ安全に使用するのをお客様の責任です。

整備について、またToro 純正部品についてなど、分からないことはお気軽に弊社代理店またはToro カスタマー・サービスにおたずねください。お問い合わせの際には、必ず製品のモデル番号とシリアル番号をお知らせください。これらの番号は、モアのハウジングに打ちつけた銘板に刻印されています。

いまのうちに番号をメモしておきましょう。

モデル番号：

シリアル番号：

この説明書では、死亡事故を含む人身事故防止のために様々な方法でお客様の注意をうながしております。危険の度合いに応じて、**危険**、**警告**、および**注意**、の3種類の用語を使い分けて説明を行っています。しかしながら、危険の度合いに関係なく、常に細心の注意をもって製品をお取り扱い下さいますようお願い申し上げます。

危険は最重要安全注意事項であり、これを遵守しないと**死亡事故を含む重大な人身事故**を引き起こす恐れがあります。

警告は死亡事故を含む人身事故を防止するための**重要安全注意事項**です。

注意 けがなどを防止するための**安全注意事項**です。

この他に2つの言葉で注意を促しています。
重要 は製品の構造などについての注意点を、
注： はそのほかの注意点を表しています。

安全

この製品はトラクションユニットのオペレーターズマニュアル掲載のとおりリア・ウェイトを搭載することにより、CEN 規格 EN 836: 1997および ISO 規格 5365: 1990（但し所定のステッカーの貼付が条件）、ならびに米国連邦 ANSI B71.4-2004 規格による乗用芝刈機の安全基準を満たすべく製造されております。

不適切な使い方をしたり手入れを怠ったりすると、人身事故につながります。事故を防止するため、以下に示す安全上の注意や安全注意標識のついている遵守事項は必ずお守りください。△これは「注意」、「警告」、「危険」など、人身の安全に関わる注意事項を示しています。これらの注意を怠ると死亡事故などの重大な人身事故が発生することがあります。

安全な運転のために

以下の注意事項は CEN 規格 EN 836:1997、ISO規格 5395:1990 および ANSI 規格 B71.4-2004 から抜粋したものです。

トレーニング

- このマニュアルや関連する機器のマニュアルをよくお読みください。各部の操作方法や本機の正しい使用方法に十分慣れておきましょう。
- 子供や正しい運転知識のない方には機械を操作させないでください。地域によっては機械のオペレータに年齢制限を設けていることがありますのでご注意ください。
- 周囲にペットや人、特に子供がいる所では絶対に作業をしないでください。
- 人身事故や器物損壊などについてはオペレータやユーザーが責任を負うものであることを忘れないでください。
- 人を乗せないでください。
- 本機を運転する人、整備する人すべてに適切なトレーニングを行ってください。トレーニングはオーナーの責任です。特に以下の点についての十分な指導が必要です：
 - 乗用芝刈り機を取り扱う上での基本的な注意点と注意の集中；
 - 斜面で機体が滑り始めるとブレーキで制御することは非常に難しくなること。斜面で制御不能となるおもな原因は：
 - タイヤグリップの不足；
 - 速度の出しすぎ；
 - ブレーキの不足；

- 機種選定の不適当；
- 地表条件、特に傾斜角度を正しく把握していなかった；
- ヒッチの取り付けや積荷の重量分配の不適切。

運転の前に

- 作業には頑丈な靴と長ズボン、および聴覚保護具を着用してください。長い髪、だぶついた衣服、装飾品などは可動部に巻き込まれる危険があります。また、裸足やサンダルで機械を運転しないでください。
 - 機械にはね飛ばされて危険なものが落ちていないか、作業場所をよく確認しましょう。
 - 警告—燃料は引火性が極めて高い。以下の注意を必ず守ってください。
 - 燃料は専用の容器に保管する。
 - 給油は必ず屋外で行い、給油中は禁煙。
 - 給油はエンジンを掛ける前に行う。エンジンの運転中やエンジンが熱い間に燃料タンクのフタを開けたり給油したりしない。
 - 燃料がこぼれたらエンジンを掛けない。機械を別の場所に動かし、気化した燃料ガスが十分に拡散するまで引火の原因となるものを近づけない。
 - 燃料タンクは必ず元通りに戻し、フタはしっかり締める。
 - マフラーが破損したら必ず交換してください。
 - 使用前に必ず、ブレード、ブレード・ボルト、カッター・アセンブリの目視点検を行ってください。バランスを狂わせないようにするため、ブレードを交換するときにはボルトもセットで交換してください。
 - 複数のブレードを持つ機械では、1つのブレードを回転させると他も回転する場合がありますから注意してください。
 - 作業場所を良く観察し、安全かつ適切に作業するにはどのようなアクセサリやアタッチメントが必要かを判断してください。メーカーが認めた以外のアクセサリやアタッチメントを使用しないでください。
 - オペレータ・コントロールやインタロック・スイッチなどの安全装置が正しく機能しているか、また安全カバーなどが外れたり壊れたりしていないか点検してください。これらが正しく機能しない時には芝刈り作業を行わないでください。
- ### 運転操作
- 有毒な一酸化炭素ガスが溜まるような閉め切った場所ではエンジンを運転しないでください。
 - 作業は日中または十分な照明のもとで行ってください。

- エンジンを掛ける前には、アタッチメントのクラッチをすべて外し、ギアシフトをニュートラルにし、駐車ブレーキを掛けてください。エンジンは、必ず運転席に座って始動してください。シートベルト装備車では必ずシートベルトを着用してください。
- 「安全な斜面」はあり得ません。芝生の斜面での作業には特に注意が必要です。転倒を防ぐため：
 - 斜面では急停止・急発進しない。
 - クラッチをつなぐときはゆっくりと。ギアは必ず入れておくこと。特に下りでは必ずギアを入れる。
 - 斜面の走行や小さな旋回は低速で。
 - 隆起や穴、隠れた障害物がないか常に注意する。
 - 斜面を横切りながらの作業は、そのような作業のために設計された芝刈機以外では絶対行わないこと。
- 隠れて見えない穴や障害物に常に警戒を怠らないようにしましょう。
- 荷を引いたり、重機を取り扱う際には安全に十分注意してください。
 - 必ず所定の牽引バーやヒッチポイントを使用する。
 - 自分が安全に取り扱える重量の限度内で作業を行う。
 - 急な旋回をしない。バックする時には安全に十分注意する。
 - マニュアルに指示があれば、カウンタバランスやホイールバランスを使用すること。
- 道路付近で作業するときや道路を横断するときは通行に注意しましょう。
- 移動走行を行うときはリールの回転を止めてください。
- アタッチメントを使用するときは、排出方向に気を付け、人に向けないようにしてください。また作業中は機械に人を近づけないでください。
- ガードが破損したり、正しく取り付けられていない状態のまま運転しないでください。インタロック装置は絶対に取り外さないこと、また、正しく調整してお使いください。
- エンジンのガバナの設定を変えたり、エンジンの回転数を上げすぎたりしないでください。規定以上の速度でエンジンを運転すると人身事故が起こる恐れが大きくなります。
- 運転位置を離れる前に：
 - 平坦な場所に停止する；
 - PTOの接続を解除し、アタッチメントを下降させる；
 - ギアシフトをニュートラルに入れ、駐車ブレーキを掛ける；
 - エンジンを止め、キーを抜き取る。
- 以下の時には、アタッチメントの駆動を解除し、エンジンを止め、点火プラグコードを外すか始動キーを抜き取るかしてください。
 - 詰まりを取り除くとき
 - 機械の点検・清掃・整備作業などを行うとき
 - 異物をはね飛ばしたとき。機械に損傷がないか点検し、必要があれば修理を行ってください。点検修理が終わるまでは作業を再開しないでください。
 - 機械が異常な振動を始めたとき（直ちに点検する）。
- 移動走行中や作業を休んでいるときはアタッチメントの駆動を止めてください。
- 次の場合は、アタッチメントの駆動を止め、エンジンを止めてください。
 - 燃料を補給するとき
 - 刈り高を変更するとき。ただし運転位置から遠隔操作で刈り高を変更できる時にはこの限りではありません。
- エンジンを停止する時にはスロットルを下げておいて下さい。また、燃料バルブの付いている機種では燃料バルブを閉じてください。
- ブレードが回転中は絶対にデッキを上昇させないでください。
- カuttingユニットに手足を近づけないでください。
- バックするときには、足元と後方の安全に十分な注意を払ってください。
- 旋回するときや道路や歩道を横切るときなどは、減速し周囲に十分な注意を払ってください。
- アルコールや薬物を摂取した状態での運転は避けてください。
- トレーラやトラックに芝刈り機を積み降ろすときには安全に十分注意してください。
- 公道を通行することが法律で認められている場合には右左折や停止時に法律で定められている信号灯などを確実に操作してください。

保守整備と格納保管

- 常に機械全体の安全を心掛け、また、ボルト、ナット、ネジ類が十分に締まっているかを確認してください。
- 火花や裸火を使用する屋内で本機を保管する場合は、必ず燃料タンクを空にし、火元から十分離してください。
- 閉めきった場所に本機を保管する場合は、エンジンが十分冷えていることを確認し、また裸火の近くでの保管は避けてください。

- 火災防止のため、エンジンやマフラー、バッテリー、カッティングユニット駆動部の周囲に、余分なグリス、草や木の葉、ホコリなどが溜まらないようご注意ください。オイルや燃料がこぼれた場合はふきとってください。
- 磨耗したり破損したりしている部品は安全のために交換してください。
- 燃料タンクの清掃などが必要になった場合は屋外で作業を行ってください。
- 複数のブレードを持つ機械では、1つのブレードを回転させると他も回転する場合がありますから注意してください。
- 機体から離れる時には必ずカッティングユニットを降下させておいてください。ただし、カッティングユニットを上昇位置に確実にロックしておくことができる場合はこの限りではありません。
- 整備・調整作業の前には、必ず機械を停止し、カッティングユニットを下げ、走行ペダルをニュートラルにし、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止し、キーを抜き取り、点火プラグのワイヤを抜いてください。また、必ず機械各部の動きが完全に停止したのを確認してから作業に掛かってください。
- 格納中や搬送中は、燃料バルブを閉じてください。裸火の近くに燃料を保管しないでください。
- 整備作業は平らな場所で行ってください。知識のない人には絶対に作業を任せないでください。
- 必要に応じ、ジャッキなどを利用して機体を確実に支えてください。
- 機器類を取り外すとき、スプリングなどの力が掛かっている場合があります。取り外しには十分注意してください。
- 修理を行うときには必ずバッテリーの接続と点火プラグの接続を外しておいてください。バッテリーの接続を外すときにはマイナスケーブルを先に外し、次にプラスケーブルを外してください。取り付けるときにはプラスケーブルから接続します。
- ブレードの点検を行うときには安全に十分注意してください。ブレードを取り扱う時には必ず手袋を着用し、安全に十分注意してください。悪くなったブレードは必ず交換してください。絶対に曲げ伸ばしや溶接で修理しないでください。
- 可動部に手足を近づけないよう注意してください。エンジンを駆動させたまま調整を行うのは可能な限り避けてください。
- バッテリーの充電は、火花や火気のない換気の良い場所で行ってください。バッテリーと充電器の接続や切り離しを行うときは、充電器をコンセントから抜いておいてください。また、安全な服装を心がけ、工具は確実に絶縁されたものを使ってください。

安全にお使いいただくために： TORO からのお願い

以下の注意事項はCEN、ISO、ANSI規格には含まれていませんが、Toroの芝刈り機を安全に使用していただくために必ずお守りいただきたい事項です。

この機械は手足を切断したり物をはね飛ばしたりする能力があります。重傷事故や死亡事故を防ぐため、注意事項を厳守してください。

この機械は本来の目的から外れた使用をするとユーザーや周囲の人間に危険な場合があります。

警告
エンジンの排気ガスには致死性の有毒物質である一酸化炭素が含まれている。 屋内や締め切った場所ではエンジンを運転しないこと。

運転中に

- ROPS (横転保護バー) を搭載して運転するときには必ずシートベルトを着用し、運転席が倒れないようにラッチで確実に固定しておいてください。
- エンジンの緊急停止方法に慣れておきましょう。
- テニスシューズやスニーカーでの作業は避けてください。
- 安全靴と長ズボンの着用をおすすめします。地域によってはこれらの着用が義務付けられていますのでご注意ください。
- エンジン回転中は、機械の可動部、カッティングデッキの裏側や排出口に手足を近づけないでください。
- 燃料を補給する時は、タンク上面から約2.5 cm下のレベル (注入口の根元) を超えて給油しないように注意してください。入れすぎないこと。
- インタロック・スイッチは使用前に必ず点検してください。スイッチの故障を発見したら必ず修理してから使用してください。また、故障の有無に関係なく2年ごとにインタロックスイッチすべてを新しいものに交換してください。
- 頭上の安全 (木の枝、門、電線など) に注意し、これらに機械や頭をぶつけないように注意すること。
- どうしても必要な時以外は、バックしながらの刈り込みは行わないでください。
- 小さな旋回をする時や斜面での旋回時は必ず減速すること。
- 急な法面を登らなければならない場合には、バックで登り、前進で降りるようにし、常時ギアを入れた状態で運転してください。

- バックで登れない場合やバックでの登坂に自信が持てない場合には、そのような場所での作業を行わないでください。
- 斜面での発進・停止は避けてください。坂を上れないと分かったら、ブレードの回転を止め、ゆっくりとバックで、まっすぐに坂を下りてください。機体の左右にカットングユニットを備えているマシンでは、斜面でこれらのユニットを上昇させないでください。
- 斜面での旋回は避けてください。どうしても旋回しなければならない場合は、ゆっくりと大きく、可能であれば谷側に、旋回してください。
- 斜面、土手、段差のある場所などで運転するときは、必ずROPS（横転保護バー）を搭載してください。
- ROPS 搭載車では必ずシートベルトを着用してください。
- 池などに落ちた場合の安全のため、シートベルトを迅速に外せるように練習しておいてください。
- 道路付近で作業するときや道路を横断するときは通行に注意しましょう。常に道を譲る心掛けを。
- 段差や溝、大きく盛り上がった場所の近くなどでは作業しないでください。万一車輪が段差や溝に落ちたり、地面が崩れたりすると、機体が瞬時に転倒し、非常に危険です。
- ぬれた芝の上では作業しないでください。大変すべりやすく、スリップを起こすと危険です。
- 足を地面に突っ張って機体を安定させようとするのは非常に危険ですからやめてください。
- 他のアタッチメントを使用する際には、別の注意が必要です。アタッチメントによってマシンの安定性が変わりますからご注意ください。
- 芝刈り作業中以外にはブレードを回転させないでください。

保守整備と格納保管

- マシンには、使用中に熱くなる部分がありますので、これらの部分に触れないよう注意してください。保守、調整、整備などの作業は、マシン各部が安全な温度に下がってから行ってください。
- ガス湯沸かし器やストーブなどの裸火の近くでは、絶対に機械や燃料容器を保管・格納しないでください。
- ボルトナット類、特にブレード取り付けボルトがゆるまないように注意してください。マシンを常に良いコンディションに維持しましょう。
- 油圧系統のラインコネクタは頻繁に点検してください。油圧を掛ける前に、油圧ラインの接続やホースの状態を確認してください。
- 油圧のピンホール・リークやノズルからは作動油が高圧で噴出していますから、手などを近づけないでください。

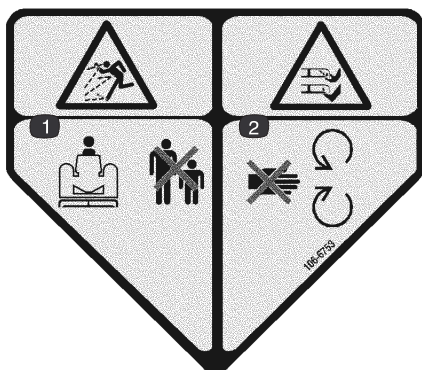
い。リークの点検には新聞紙やボール紙を使い、絶対に手を直接差し入れたりしないでください。高圧で噴出する作動油は皮膚を貫通し、身体に重大な損傷を引き起こします。万一、油圧オイルが体内に入った場合には、この種の労働災害に経験のある施設で数時間以内に外科手術を受けないと壊疽を起こします。

- エンジンを回転させながら調整を行わなければならない時は、手足や頭や衣服をカットングユニットや可動部に近づけないように十分ご注意ください。また、無用の人間を近づけないようにしてください。
- ブレーキの状態を頻繁に点検してください。必要に応じて調整や整備を確実に行ってください。
- バッテリー液は毒性があり、皮膚に付くとやけどを引き起こします。皮膚、目、衣服に付着させないように注意してください。バッテリーに関わる作業を行うときには、顔や目や衣服をきちんと保護してください。
- バッテリーからは爆発性のガスが発生します。バッテリーにタバコの火、火花などの火気を近づけないでください。
- オイルの点検や補充は、必ずエンジンを停止した状態で行ってください。
- 大がかりな修理が必要になった時、補助が必要な時 Toro 正規代理店にご相談ください。
- いつも最高の性能と安全性を維持するために、必ず Toro の純正部品をご使用ください。他社の部品やアクセサリを御使用になると危険な場合があります、製品保証を受けられなくなる場合がありますのでおやめください。

安全ラベルと指示ラベル



危険な部分の近くには、見やすい位置に安全ラベルや指示ラベルを貼付しています。破損したりはがれたりした場合は新しいラベルを貼付してください。



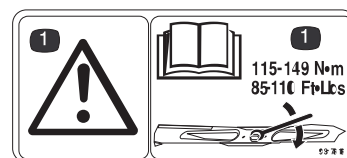
106-6753

1. 異物が飛び出す危険：人を近づけないこと。
2. ブレードによる手足切断の危険：可動部に近づかないこと。



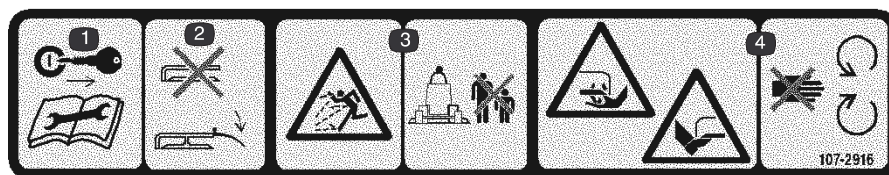
93-6697

1. オペレーターズマニュアルを読むこと。
2. 50運転時間ごとにSAE 80w-90 (API GL-5) オイルを補給すること。



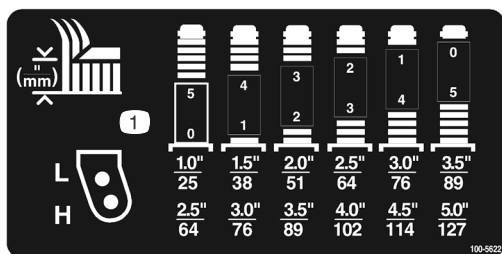
93-7818

1. 危険：ブレードのトルク値をオペレーターズマニュアルで確認すること。



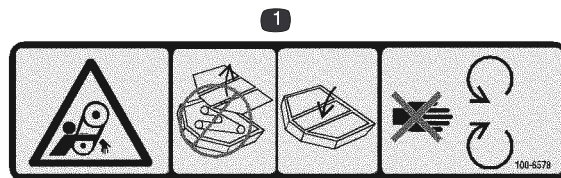
107-2916

1. 警告：整備作業前にはエンジンキーを抜き取り、マニュアルを読むこと。
2. デフレクタを上位置にセットして、あるいは取り付けないで運転しないこと；必ず正しく取り付けて運転すること。
3. 異物が飛び出す危険：人を近づけないこと。
4. ブレードによる手足切断の危険：可動部に近づかないこと。



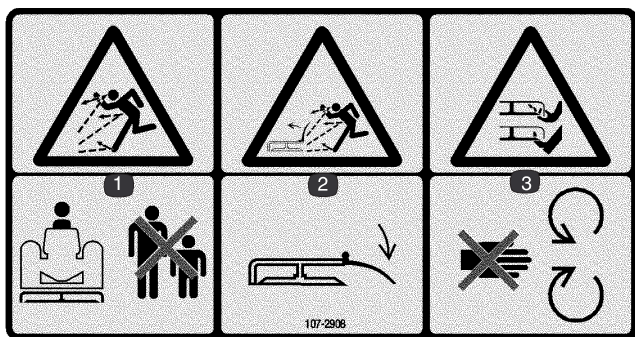
100-5622

1. 刈高 調整。



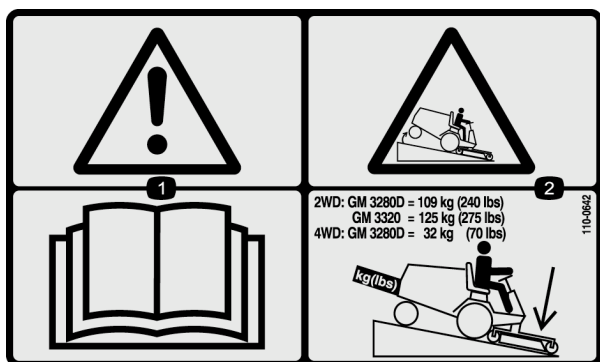
100-6678

1. ベルトに巻き込まれる危険：シールドやガードを外したままで運転しないこと；必ず正しく取り付けて運転すること；可動部に近づかないこと。



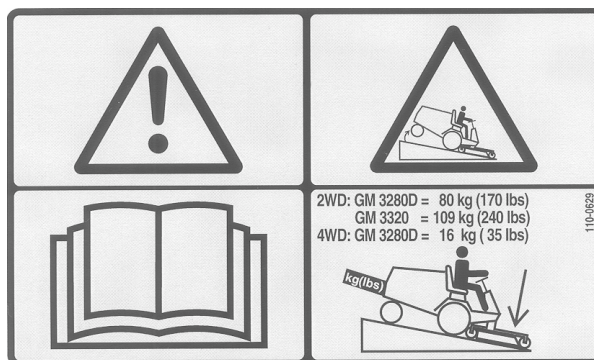
107-2908

1. 異物が飛び出す危険：人を近づけないこと。
2. 異物が飛び出す危険：デフレクタを取り付けて運転すること。
3. ブレードによる手足切断の危険：可動部に近づかないこと。



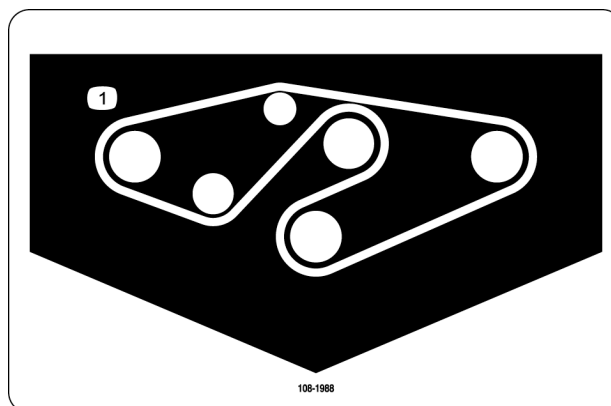
110-0642
(モデル 30368)

1. 警告：オペレーターズマニュアルを読むこと。
2. 転倒の危険 - 下り斜面ではカッティングユニットを降ろして走行すること。GM 3280D の2輪駆動車には 109 kg のリア・ウェイトを搭載のこと。GM 3320 には 125 kg のリア・ウェイトを搭載のこと。3280 D の4輪駆動車には 32 kg のリア・ウェイトを搭載のこと。



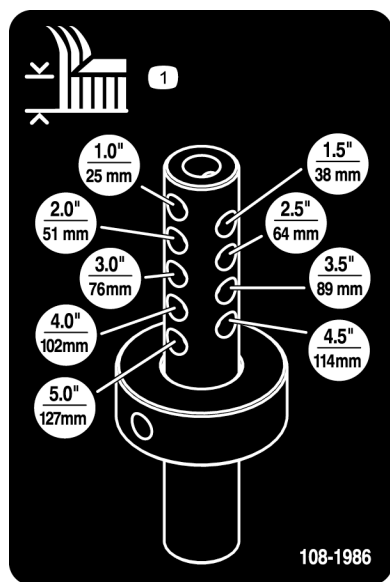
110-0629
(モデル 30366)

1. 警告：オペレーターズマニュアルを読むこと。
2. 転倒の危険 - 下り斜面ではカッティングユニットを降ろして走行すること。GM 3280D の2輪駆動車には 80 kg のリア・ウェイトを搭載のこと。GM 3320 には 109 kg リア・ウェイトを搭載のこと。3280 D の4輪駆動車には 16 kg のリア・ウェイトを搭載のこと。

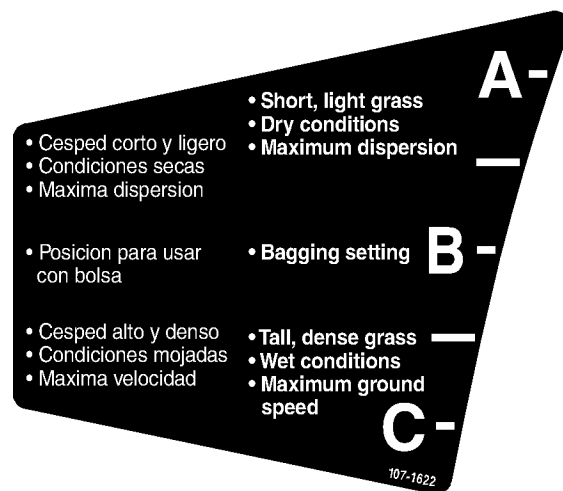


108-1988

1. ベルトの掛け方。



108-1986



107-1622

1. 刈高。

仕様

仕様

刈幅	60 インチまたは 72 インチ, 3 枚刃。
刈高	調整範囲は25-127 mm; 調整は 13 mm 刻みで行うことができる。刈高の調整は、キャスト・ホイールのスペーサの増減と、刈高ロッドの長さ調整により行う。
構造	ハウジングはゲージ7の鋼板製で、チャンネル材およびプレートにより補強している。
カッターの駆動	カッティングユニットに取り付けた防振ギア・ボックスをPTOシャフトにより駆動する。駆動力はベルト1本で全部のブレードに伝達する。スピンドル部にはグリスニップル付きテーパード・ローラ・ベアリングを2個使用する。
ブレード	刃厚 6.35 mm ² のブレードを 3 枚使用する。
サスペンションおよびキャスト・ホイール	カッティングユニット前部に、8 in. x 3.5 in 空気タイヤとシールド・ボールベアリングによるキャスト・ホイール2個を搭載する。カッティングユニット後部は昇降アームにより懸架する; カッティングユニットのレーキ部は調整リンクにより調整可能である。
芝削り防止機能	各ブレードに芝削り防止カップを装備する。芝削り防止ローラカッティングユニット左右に調整機能付きスキッド (そり) を装備する。
カッティングユニットのカバー	スチール製カバー。

注: 仕様は予告なく変更される場合があります。

組み立て

注：前後左右は運転位置からみた方向です。

付属部品表

注：組み立てに必要な部品がすべてそろっているか、以下の表で確認してください。全部そろっていないと正しい組み立てができません。出荷時に取り付けてある部品もありますから注意してください。

名称	数量	用途
排出デフレクタ・アセンブリ (ゴム製)	1	カッティングユニットの側部に取り付けます。 (モデル 30368 のみ)
ネジ, 5/16 x 7-1/2in.	1	
スパーサ・チューブ	1	
トーション・スプリング	1	
フランジ・ナット, 5/16	1	
ピボット・ピン・アセンブリ	2	昇降アームをトラクションユニットに取り付けます。
コッター・ピン	2	
右側昇降アーム	1	カッティングユニットと昇降アームの接続に使用します。
左側昇降アーム	1	
スラスト・ワッシャ (ナイロン)	4	
クレビス・ピン	4	
ヘアピン	2	
刈高カラー	2	
クレビス・ピン	2	
ヘアピン	2	
キャップスクリュー, 1/2 x 3/4 in.	2	
ワッシャ	2	
EEC 認証証明書	1	
パーツカタログ	1	
オペレーターズマニュアル	1	ご使用前にお読みください。



危険



PTO シャフトを接続したままでエンジンが始動すると重大な人身事故が発生する恐れがある。

PTO シャフトがカuttingユニットのギア・ボックスに接続されるまでは、エンジンを始動してPTOレバーを操作してはならない。

デフレクタを取りつける

(モデル 30368 のみ)



警告



排出口を露出させたままでおくと、異物が飛び出してきてオペレータや周囲の人間に当たり、重大な人身事故となる恐れがある。また、ブレードに触れて大怪我をする可能性もある。

- ・ モアを使用するときには、必ず、カバー・プレート、マルチ・プレートまたは集草装置を取り付けておくこと。
- ・ デフレクタは、必ず下向きになっているのを確認しておくこと。

1. デフレクタのブラケットの間にスペーサとスプリングを入れる(図1)。スプリングの左側のフックを、デッキのエッジに引っ掛ける。

注：ボルトを取り付ける前に、スプリングの J フックがデッキのエッジに取り付けられていることを確認してください。

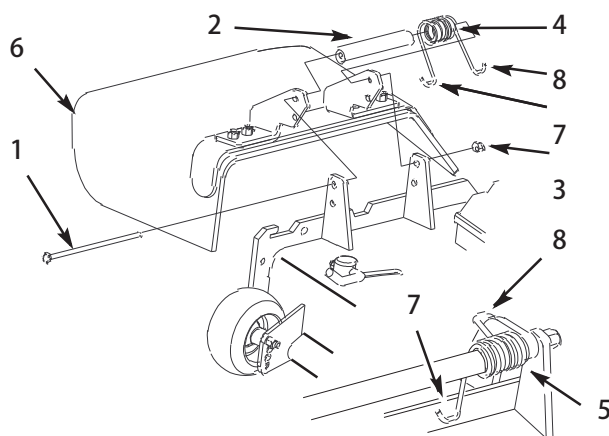


図 1

- | | |
|------------------|---|
| 1. ボルト | 6. デフレクタ |
| 2. スペーサ | 7. スプリングの左側フックの端部、デッキのエッジの後ろに取り付けてからボルトを取り付ける |
| 3. ロックナット | 8. スプリングの右側のフック |
| 4. スプリング | |
| 5. スプリングを取り付けた状態 | |

2. ボルトとナットを取り付ける。スプリングの右側の J フックの端を、デフレクタに引っ掛ける(図1)。

重要

デフレクタがスプリングによって下向き位置になることが必要です。デフレクタを手で上向きにし、自力で下まで完全に下がることを確認してください。

昇降アームをトラクションユニットに取り付ける

1. トラクションユニットの右前輪または左前輪のホイール・ナットをゆるめる(外してしまわないこと)。
2. 機体をジャッキアップしてゆるめた車輪を床から浮かす。落下事故防止のために、ジャッキ・スタンドや支持ブロックなどを使ってサポートする。
3. ゆるめたホイール・ナットを外し、タイヤとホイールを機体から外す。
4. ピボット・ピン 1 本、コッター・ピン 1 本を使って、ピボット・ブラケットに昇降アームを取り付ける(図2)。昇降アームは、端部の曲線部分が外向きになるように取り付ける。
5. ピボット・ピン 1 本とコッター・ピン 2 本(トラクションユニットに付属)を使って、昇降アームの後部を昇降アームに接続する。
6. ブレーキ・リターン・スプリングを昇降アームの穴に引っ掛ける(図2)。

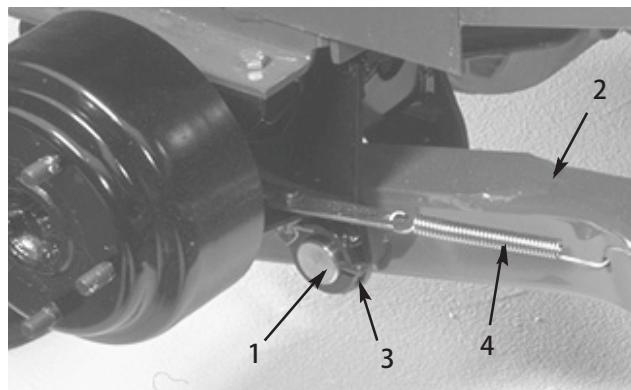


図 2

1. ピボット・ピン
2. 昇降アーム
3. ピボット・ブラケット
4. ブレーキ・リターン・スプリング

7. ホイール&タイヤ・アセンブリを取り付ける。ホイール・ナットを 61-75 Nm (6.2~7.6 kg.m) にトルク締めする。
8. 同様の方法で機体の反対側でも作業を行う。

昇降アームをカッティングユニットに接続する

1. カッティングユニットをトラクションユニットの前に置く。
2. 昇降レバーをフロート位置とする。昇降アームを押下げて、昇降アームについている穴とキャスト・アーム・ブラケットについている穴を整列させ、昇降アームのパッドに刈高ロッドを挿入できるようにする (図3)。
3. スラスト・ワッシャ2枚、クレビス・ピン、ヘアピン・コッターを使って、昇降アームをキャスト・アームに固定する。スラスト・ワッシャは昇降アームとキャスト・アーム・ブラケットの間に入れる (図3)。コッター・ピンを、キャスト・アーム・タブのスロットに差し込んで固定する。

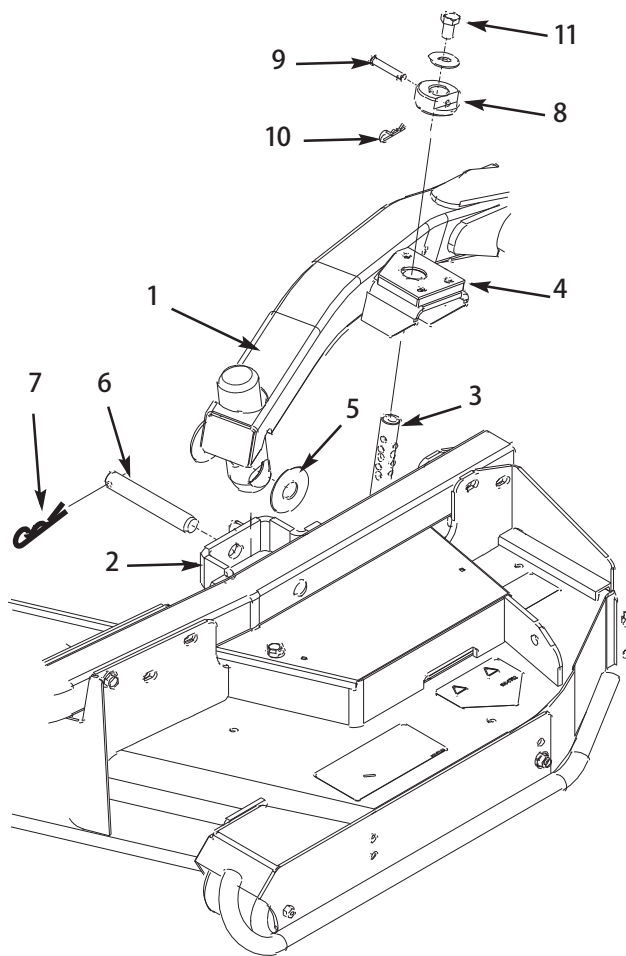


図 3

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1. 昇降アーム | 7. ヘアピン・コッター |
| 2. キャスト・アーム・ブラケット | 8. 刈高カラー |
| 3. 刈高ロッド | 9. クレビス・ピン |
| 4. 昇降アームのパッド | 10. ヘアピン・コッター |
| 5. スラスト・ワッシャ | 11. キャップスクリュ |
| 6. クレビス・ピン | |

4. もう一方の昇降アームにも同じ作業を行う。
5. トラクションユニットを始動し、カッティングユニットを上昇させる。
6. カッティングユニットの後部を押し下げ、昇降アームのパッドに刈高ロッドを通す。
7. 刈高ロッドに刈高カラーを取り付け、クレビス・ピンとヘアピン・コッターで固定する (図3)。できれば、クレビス・ピンの頭をデッキの前面に向けておいてください。
8. 各刈高ロッドの上部に 1/2 x 3/4" キャップスクリュとワッシャを取り付ける (図3)。

PTOシャフトをカッティングユニットのギア・ボックスに接続する

1. オスの PTO シャフトとメスの PTO シャフトを接続する。ギア・ケースの入力シャフトの取り付け穴と PTO シャフト穴とを整列させて相互に接続する。

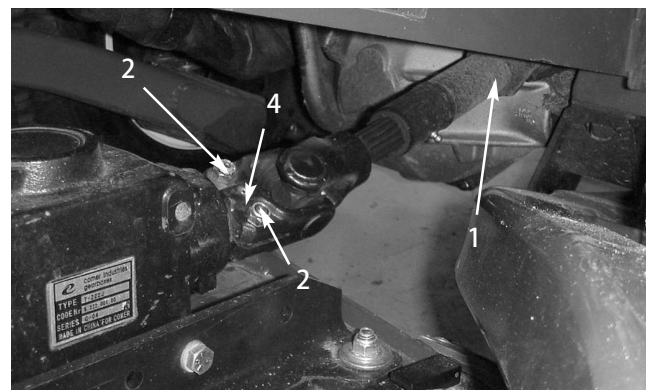


図 4

1. PTO シャフト
2. ボルトとロックナット
3. ギア・ケース
4. ロール・ピン

2. ロール・ピンで固定する。
3. キャップスクリュとナットを締めつける。

グリスアップを行う

初めて運転する前にデッキ全体のグリスアップを行ってください; 作業要領はグリスアップの項目を参照してください。この作業を怠ると重要部品に急激な磨耗が発生しますから注意してください。

運転の前に



注意



始動キーをつけたままにしておくと、誰でもいつでもエンジンを始動させることができ、危険である。

整備・調整作業の前には必ずエンジンを停止し、キーを抜いておくこと。

ギア・ボックスのオイルを点検する

ギア・ボックスに使用するオイルは SAE 80～90 のギア用潤滑油です。適量のオイルを入れて出荷していますが、カッティングユニットを使用する前に点検してください。

1. マシンとカッティングユニットを平らな場所に駐車させる。
2. ギア・ボックスの上部についているディップスティック兼給油プラグ (図5) を取り、オイルの量が、ディップスティックについている2本のマークの間にあることを確認する。油量が少なければ2本のマークの間まで補給する。

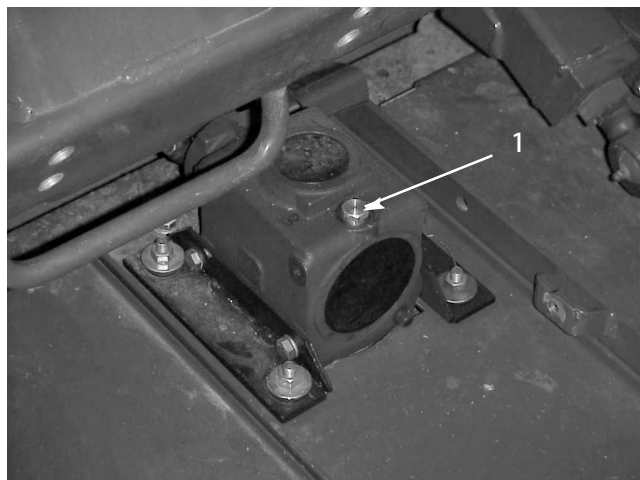


図 5

1. ディップスティック/補給プラグ

刈り高を調整する

刈高の調整範囲は25～127 mm、調整間隔は 13 mm 刻みです。調整は、キャスタ・ホイールの軸を、キャスタ・フォークの上穴または下穴にセットし、キャスタ・フォークにスペーサを増減し、刈高ロッドの所定の穴に刈高カラーを固定して行います。スペーサの増減は左右とも同じに調整してください。

1. エンジンを始動し、刈高の調整ができる程度にカッティングユニットを床から上げる。カッティングユニットを上昇させたらエンジンを止め、キーを抜き取る。

2. 左右のキャスタ・フォークの同じ穴にキャスタ・ホイールの軸をセットする。どの穴にセットするかは、図7を参照のこと。

注：刈高 64 mm 以上で使用する場合には、ホイールとフォークとの間に刈りカスがたまるのを防止するために、ホイール軸のボルトをキャスタ・フォークの低い方の穴にセットしてください。刈高 64 mm 以下で使用してホイールとフォークとの間に刈りカスがたまる場合には、機体を少しバックさせると溜まった刈りカスを落とすことができます。

3. スピンドル・シャフトからテンショニング・キャップを取り (図6)、キャスタ・アームからスピンドルを抜き出す。シム (3 mm) を2枚スピンドルのシャフトに通す (当初の状態と同じに)。これらのシムは、デッキ全体の左右の水平調整に必要となる。希望する刈高に必要な枚数のスペーサ (13 mm厚) をスピンドル・シャフトに通し、その上からワッシャを取り付ける。

スペーサの組み合わせ方法については、図7を参照のこと。

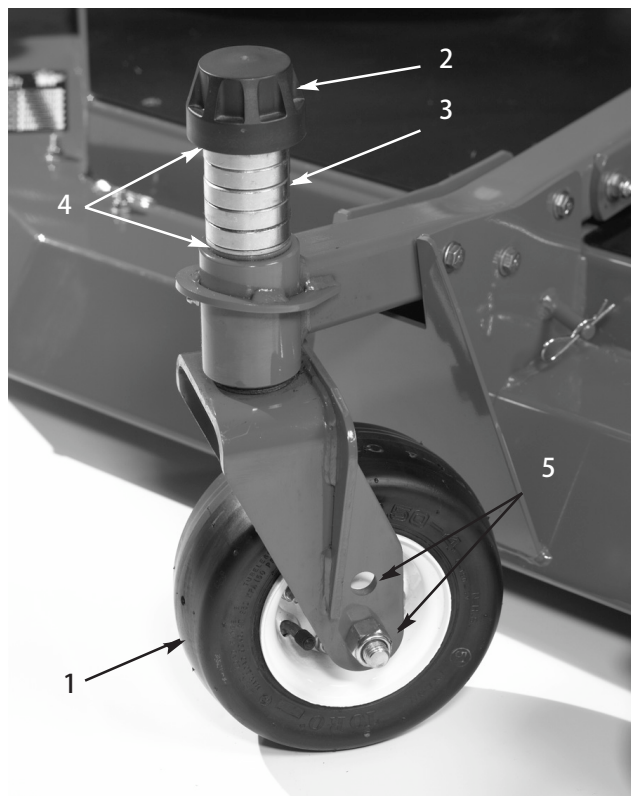


図 6

1. キャスタ・ホイール
2. テンショニング・キャップ
3. スペーサ
4. シム
5. ホイール軸の取り付け穴

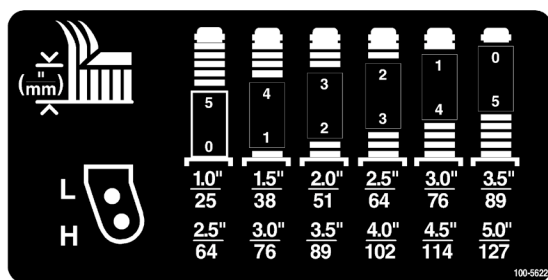


図 7

4. キャスタ・アームにキャスタ・スピンドルを通す。スピンドル・シャフトにシムを取り付け（当初の状態と同じに）、残りのスペーサも取り付ける。テンショニング・キャップを取り付けてアセンブリを固定する。
5. カuttingユニット後部で、刈高ロッドに刈高カラーを固定しているヘアピンとクレビス・ピンを外す（図8）。



図 8

1. 刈高ロッド
2. 刈高カラー
3. クレビス・ピンとヘアピン

6. 刈高ロッドについている刈高穴から希望する刈高を選び、そこに刈高カラーをセットする（図9）。

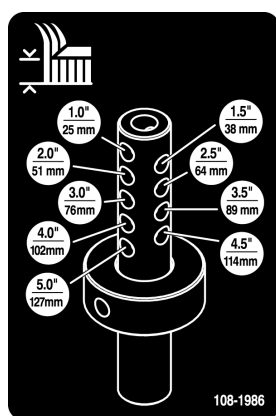


図 9

7. クレビス・ピンとヘアピンで刈高を固定する。

注：できれば、クレビス・ピンの頭をデッキの前面に向けておく。

注：刈高25 mm、38 mm、また場合により 51 mm で使用する時には、スキッド（そり）とローラを一番高い穴にセットして使ってください。

カuttingユニットのピッチを調整する

カuttingユニットのピッチの測定

カuttingユニットのピッチとは、ブレードを前後方向に向けたときのブレードの前後における床からの高さの差を言います。ブレードのピッチは 6 mm が推奨です。ブレードの先端の高さを比べたとき、前よりも後ろの方が 6 mm 高くなっていれば適正です。

1. 作業場の平らな場所に駐車する。
2. カuttingユニットを希望の刈高にセットする。
3. まず、1本のブレードを前後方向に向ける。
4. 短い定規を使って、床面からブレードの前側の刃先までの高さを測る。ブレードを半回転させて後方に回し、床面からこの切っ先までの高さを測る。
5. 後方での測定値から前方での測定値を引いた値がブレードのピッチとなる。
6. ピッチが適正でない場合は、刈高ロッドの下部についているジャムナットを外す（図10）。



図 10

1. 刈高ロッド
2. ジャム・ナット

7. 刈高ロッドを回転させてカuttingユニット後部を上下させ、適切なピッチに調整する。
8. ジャムナットを締めつける。

スキッドの調整

刈高 64 mm 以上で使用する場合は、スキッド (そり) を低い方の位置にセットし、刈高 64 mm 以下で使用する場合は高い位置にセットしてください。

スキッドの調整は、フランジ・ボルトとナットを外して行います (図11)。

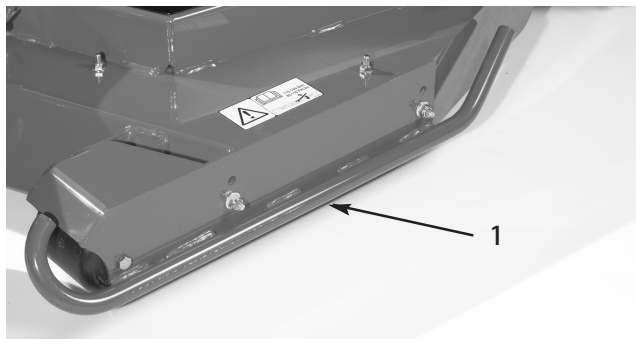


図 11

1. スキッド

芝削り防止ローラを調整する

刈高を変更した場合には芝削り防止ローラの高さの調整を行うことをお勧めします。

1. 刈高を変更後、ローラのフランジ・ナット、ブッシュ、スペーサ、ボルトを外してローラの高さ調整を行う。(図12)

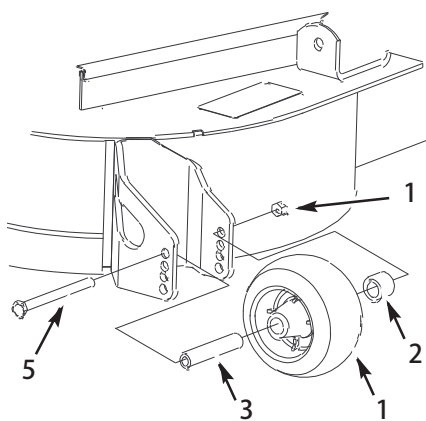


図 12

1. 芝削り防止ローラ
2. スペーサ
3. ブッシュ
4. フランジ・ナット
5. ボルト

2. 設定した刈高に一番近い数値の穴を、芝削り防止ローラの取り付け穴とする (図13)。

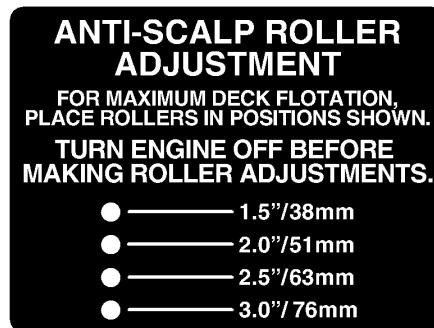


図 13

3. フランジ・ナット、ブッシュ、スペーサ、ボルトを取り付ける。ボルトを54-61 Nm = 5.5~6.2 kg.m にトルク締める (図12)。

ローラを調整する

注：刈高 25 mm または 38 mm でカッティングデッキを使用する場合には、カッティングデッキのローラの取り付け位置を、ブラケットの一番上の穴に変更してください。

前ローラの調整方法 (図14)

1. ローラのシャフトをデッキのブラケットに固定しているネジとボルトを取り外す。

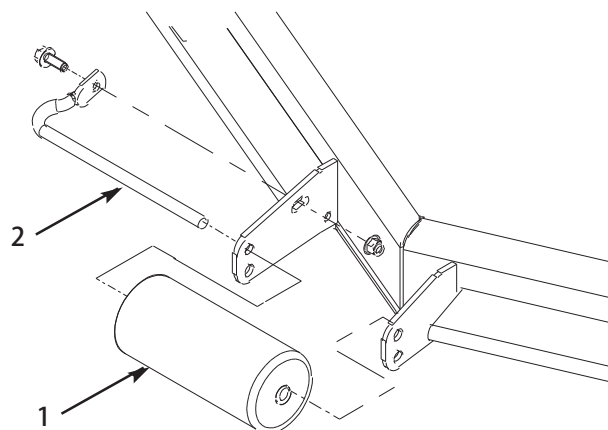


図 14

1. ローラ
2. ローラ・シャフト

2. ブラケットの下側の穴からシャフトを抜き取り、上側の穴に付け替える。
3. ネジとナットを取り付けてアセンブリを固定する。

後（内側）ローラの調整方法（図15）

1. ローラ・シャフトをデッキの内側に固定しちえるコッター・ピンを外す。

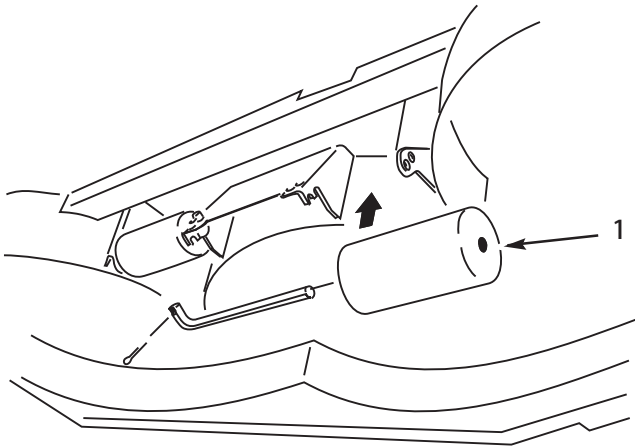


図 15

1. 内側ローラ

2. ローラ・ブラケットの穴からシャフトを抜き取り、上側の穴にローラを合わせてシャフトを取り付ける。
3. コッター・ピンを取り付けてアセンブリを固定する。

フロー・バッフルを調整する

刈り込みのコンディションの合わせて、カッティングデッキの排出フローを調整することができます。刈りあがりか最も良くなる位置に、カム・ロックとバッフルをセットしてください。

1. カム・ロックは、レバー（図16）をゆるめて調整する。

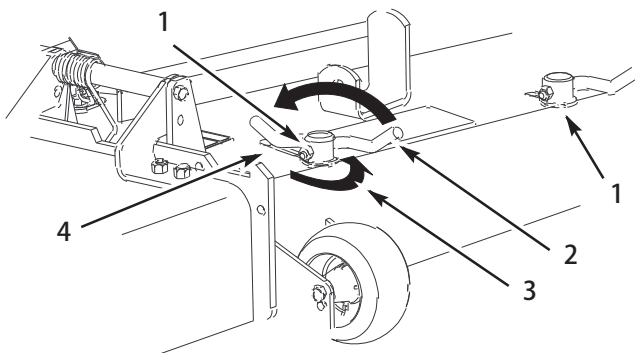


図 16

1. カム・ロック
2. レバー
3. カムを回してロック圧を調整する
4. スロット

2. 希望の排出フローになるように、スロットの中の位置を調整する。
3. 調整ができればレバーを締めてバッフルとカム・ロックを固定する。
4. カムがバッフルを固定しない、あるいは固すぎる場合には、レバーをゆるめてからカム・ロックを回す。適切にロックできるようにカム・ロックを調整すること。

フロー・バッフルの位置調整を行う

以下に示す図はあくまでも参考（推奨）です。

草種や湿度、ターフの草丈などにより設定を変えてください。

注：走行速度が変わらないのにモアの回転速度が落ちてくる場合にはバッフルを開いてください。

A の位置

一番後ろにセットした状態です。以下のような条件で使うのに適しています。

- 草丈が低く、軽い刈り込み
- 乾燥した場所での刈り込み
- 刈りカスが少ない刈り込み
- 刈りカスを遠くへ飛ばしたい刈り込み

一番後ろにセットした状態

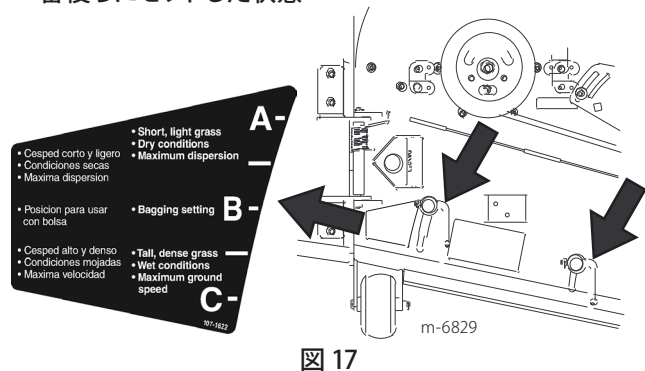


図 17

B 位置

集草を行うのに適した設定です。

中間位置

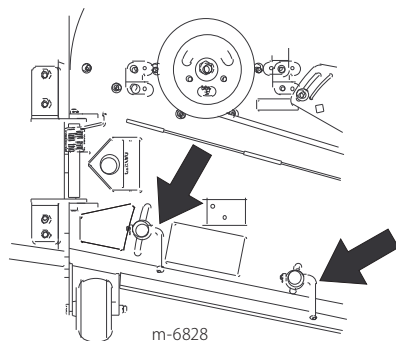


図 18

C 位置

一番開いた状態です。以下のような条件で使うのに適しています。

- 草丈が高く、密度が高い刈り込み
- 湿った場所での刈り込み
- エンジンからのパワー消費を下げたい場合
- 重い芝刈り作業を、走行速度を上げて行いたい時

一番前にセットした状態

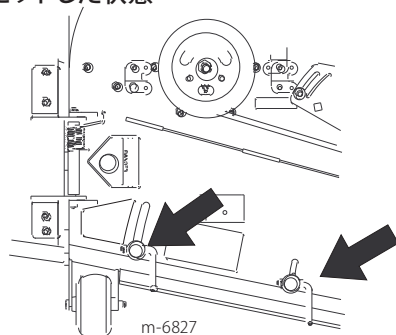


図 19

1. 昇降アームのスイッチ
2. キャリッジ・ボルトのナット
3. 昇降アームのフラグ (旗)

カッティングユニットの ミスマッチの修正

各ターフのコンディションは同じでなく、またトラクションユニットのカウンタバランスの設定も様々ですので、本格作業を開始する前に試験刈りを行って、刈りあがりを確認することをお奨めします。

1. 希望の刈高に設定する。13ページ「刈高の調整」を参照のこと。
2. トラクションユニットのタイヤ空気圧を前後とも 172~207 kPa (1.75~2.1 kg/cm²) に調整する。

3. キャスタ・タイヤの空気圧を 3.5 kg/cm² に調整する。(345 kPa)。
4. 23ページの「ブレードの曲がりを点検する」を参照。
5. テスト区域を刈って、全部のカッティングユニットが同じ刈高で刈っているかどうかを見る。
6. カッティングユニットの調整が必要な場合は平らな場所で行う。長さ 2mまたはそれ以上の真っ直ぐな棒を用意する。
7. 測定を容易にするため、一番高い刈高に設定する。「刈高の調整」を参照のこと。
8. 平らな床の上にカッティングユニットを降下させる。カッティングユニットからカバーを外す。
9. ブレードが前後方向を指すように回転させる。
10. 床面からブレードの切っ先までの高さを測る。
11. ステッカーに表示されている刈り高になるよう、3mmのシムで調整する (図20) ; 「カッティングユニットのピッチの調整」を参照。

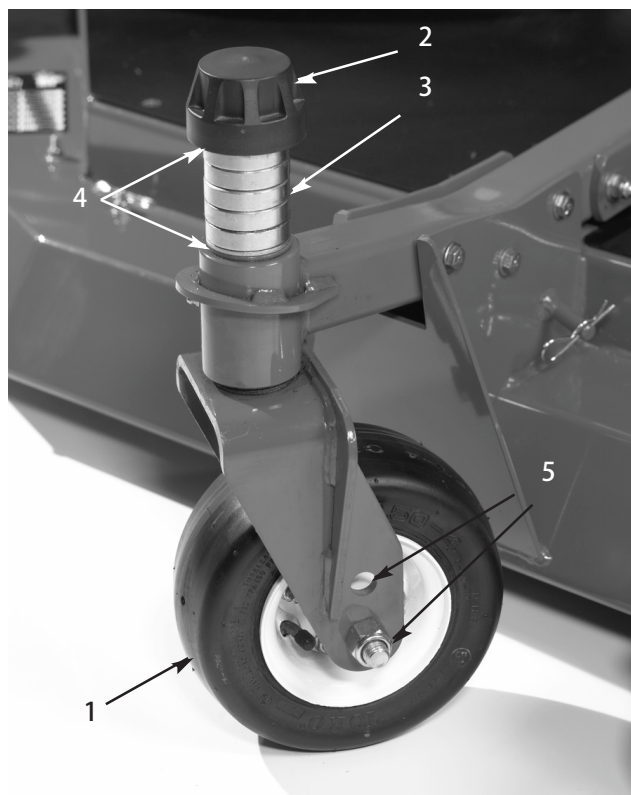


図 20

1. キャスタ・ホイール
2. テンショニング・キャップ
3. スペース
4. シム
5. ホイール軸の取り付け穴

運転操作

注：前後左右は運転位置からみた方向です。

サイド・ディスチャージの使い方

カッティングデッキ（モア）には、刈りカスを横下方向へ向けるデフレクタが取り付けられています。

⚠	危険	⚠
デフレクタや、排出カバー、または集草アセンブリを確実に取り付けずに使用すると、人がブレードに触れたり、ブレードに跳ね飛ばされたものが人に当たったりするなどして極めて危険である。回転中のブレードに触れたり、跳ね飛ばされた物に当たると、けがをするばかりでなく場合によっては死亡する。		
• デフレクタは排出方向を下向きにする重要な部材であるから、絶対に取り外したままで刈り込みを行ってはならない。デフレクタが破損している場合には直ちに交換すること。 • カッティング・デッキの下には絶対に手足を差し入れないこと。 • 排出部やブレード部に手を入れる場合には、必ず、PTOを解除し、エンジンを止め、キーを抜き取っておくこと。 • デフレクタは、必ず下向きになっているのを確認しておくこと。		

運転のヒント

刈り込みは芝が乾いている時に

刈り込みは、朝露を避けて遅めの午前中か、直射日光を避けて午後遅くに行いましょう。露があると草がかたまりになりやすく、また刈りたての草は強い直射日光に当たるとダメージを受けます。

条件に合った刈り高の設定を

一度に切り取る長さは25 mm以内に抑えましょう。草丈の1/3 以上は刈り取らないのが原則です。成長期の密生している芝生では刈り高設定をさらに一目盛り上げる必要があるかもしれません。

定期的に刈り込む

通常のシーズン条件では、4～5日に1回の刈り込みが必要になるでしょう。しかし、草の生長速度は色々な条件によって左右され、一定ではありません。例えば寒冷な地域では春から初夏にかけての芝草の成長期に最も頻繁な刈

り込みが必要となり、成長速度の落ちる夏には8～10日に1度ぐらいの間隔になると思われます。悪天候などで定期的に刈り込むことができずに草丈が伸びてしまった場合には、刈り高を高くして1回刈り、2～3日後に刈り高を通常に戻してもう一度刈るようにするときれいに仕上がります。

いつも鋭利なブレードを使うこと

刃先が鋭利であれば、芝草の切り口もきれいです。切れ味の悪い刃先は芝草を引きちぎるので、切り口が茶色に変色し、芝草の成長を悪くし、また病気にもかかりやすくなります。

作業後の洗浄と点検

きれいな刈りあがりを維持するために、芝刈り作業が終わったらホースと水道水でカッティングユニットの裏側を洗浄してください。刈りカスがこびりつくと、刈り込みの性能が十分に発揮されなくなります。

カッティングユニットのピッチ

ブレードのピッチは6 mmが推奨です。ピッチを大きく（6 mm以上）すると、刈り込みに必要なパワーは小さくなりますが、クリップが大きくなり、刈り上がりの質が悪くなります。ピッチを小さく（6 mm以下）すると、刈り込みに必要なパワーは大きくなりますが、クリップが小さくなり、刈り上がりの質が向上します。

保守

推奨定期整備一覧表

定期整備間隔	整備内容
最初の 2 運転時間後	・ キャスタ・ホイール・ナットを締めつける。
最初の 10 運転時間後	・ キャスタ・ホイール・ナットを締めつける。 ・ ブレードのボルトのトルク締めを行う。
毎日	・ ブレードを点検する。 ・ キャスタ・アームのブッシュにグリスを補給する。 ¹ ・ キャスタ・ホイールのベアリングにグリスを補給する。 ¹
50運転時間ごと	・ キャスタ・ホイール・ナットを締めつける。 ・ ブレードのボルトのトルク締めを行う。 ・ 各グリス注入部のグリスアップを行う。 ¹ ・ カuttingユニットのベルト・カバーの裏側を清掃する。 ・ ブレードの駆動ベルトの調整を点検する。 ・ ギア・ボックスのオイルの量を点検する。
400運転時間ごと	・ ギア・ボックスのオイルを交換する。

¹車体を水洗いした時は整備間隔に関係なく直後に行う。



注意



始動キーをつけたままにしておくと、誰でもいつでもエンジンを始動させることができ、危険である。

整備・調整作業の前には必ず始動キーを抜いておくこと。

ベアリングとブッシュのグリスアップ

定期的に、全部のベアリングとブッシュにNo.2汎用リチウム系グリスを注入します。通常の使用では 50 運転時間ごとに行いますが、機体を水洗いしたあとは整備間隔に関係なく直ちにグリスアップしてください。

グリスアップ箇所を以下に列挙します：

- ・ キャスタ・フォークのシャフトのブッシュ (2ヶ所) (図21)
- ・ スピンドルのシャフトのベアリング (3ヶ所) (プーリの下) (図22)
- ・ アイドラ・アームのシャフトのベアリング (図22)
- ・ 昇降アームのピボット (前) (2ヶ所; 図23)
- ・ 昇降アームのピボット (後) (2ヶ所; 図24)



図 21



図 22

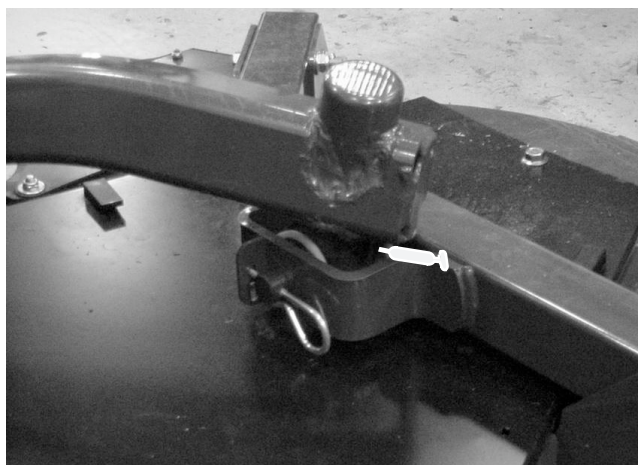


図 23

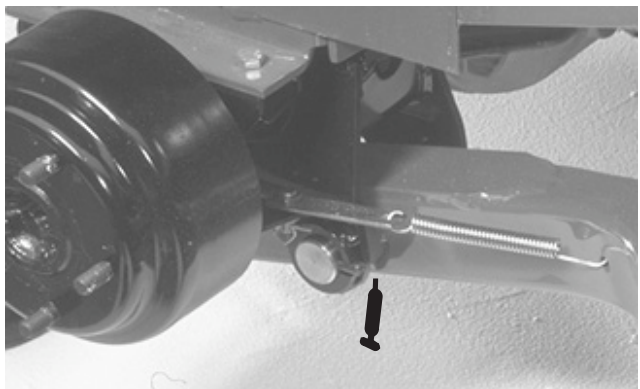


図 24

2. マシンとカッティングユニットを平らな場所に駐車させ、カッティングユニットを降下させる。ギア・ボックスの上部についているディップスティック兼給油プラグ（図 25）を取り、オイルの量が、ディップスティックについている2本のマークの間にあることを確認する。油量が少なければ、SAE 80-90 wt. ギア用潤滑油を2本のマークの間まで補給する。

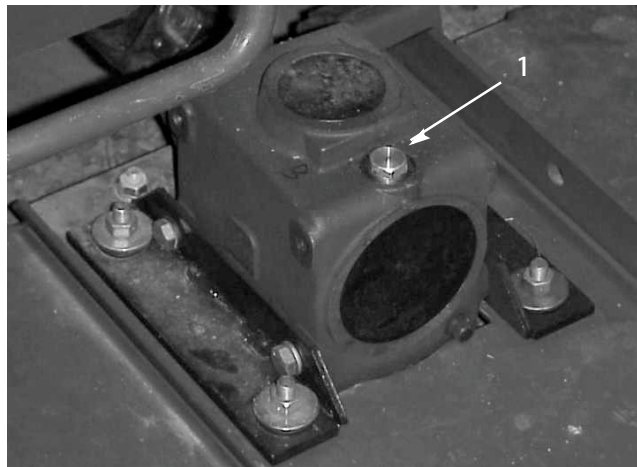


図 25

1. 補給・点検プラグ

カッティングユニットの取り外し

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、昇降レバーをフロート位置にセットし、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止し、キーを抜き取る。
2. 各刈高ロッドの上部についているキャップスクリューとワッシャを外す (図8)。
3. カッティングユニット後部で、刈高ロッドに刈高カラーを固定しているヘアピンとクレビス・ピンを外す (図8)。刈高カラーを外す。



図 26

1. 刈高ロッド
2. キャップスクリューとワッシャ
3. 刈高カラー
4. ヘアピンとクレビス・ピン

4. 昇降アームをキャスト・アーム・ブラケットに固定しているヘアピン・コッターとクレビス・ピンを外す (図27)。

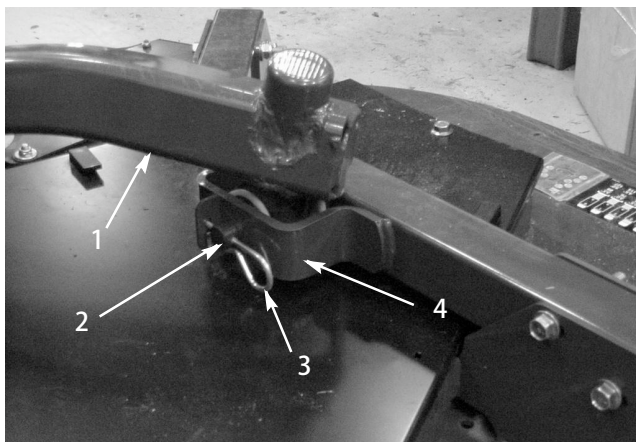


図 27

1. 昇降アーム
2. クレビス・ピン
3. ヘアピン・コッター
4. キャスタ・アーム・ブラケット

5. PTO シャフトのオスメスの接続部分 (図28) を解除して、カッティングユニットをトラクションユニットから引き出す。



図 28

1. PTO シャフト



危険



PTO シャフトを接続したままでエンジンが始動すると重大な人身事故が発生する恐れがある。

PTO シャフトがカッティングユニットのギア・ボックスに接続されるまでは、エンジンを始動してPTOレバーを操作してはならない。

トラクションユニットへのカッティングユニットの取り付け

1. 平らな場所に駐車しエンジンを停止する。
2. カッティングユニットをトラクションユニットの前に置く。
3. オスの PTO シャフトをメスの PTO シャフトに接続する (図28)。
4. 昇降レバーをフロート位置とする。昇降アームを押し下げて、昇降アームについている穴とキャスト・アーム・ブラケットについている穴を整列させ、昇降アームのパッドに刈高ロッドを挿入できるようにする (図29)。
5. スラスト・ワッシャ2枚、クレビス・ピン、ヘアピン・コッターを使って、昇降アームをキャスト・アームに固定する。スラスト・ワッシャは昇降アームとキャスト・アーム・ブラケットの間に入れる (図29)。コッター・ピンを、キャスト・アーム・タブのスロットに差し込んで固定する。

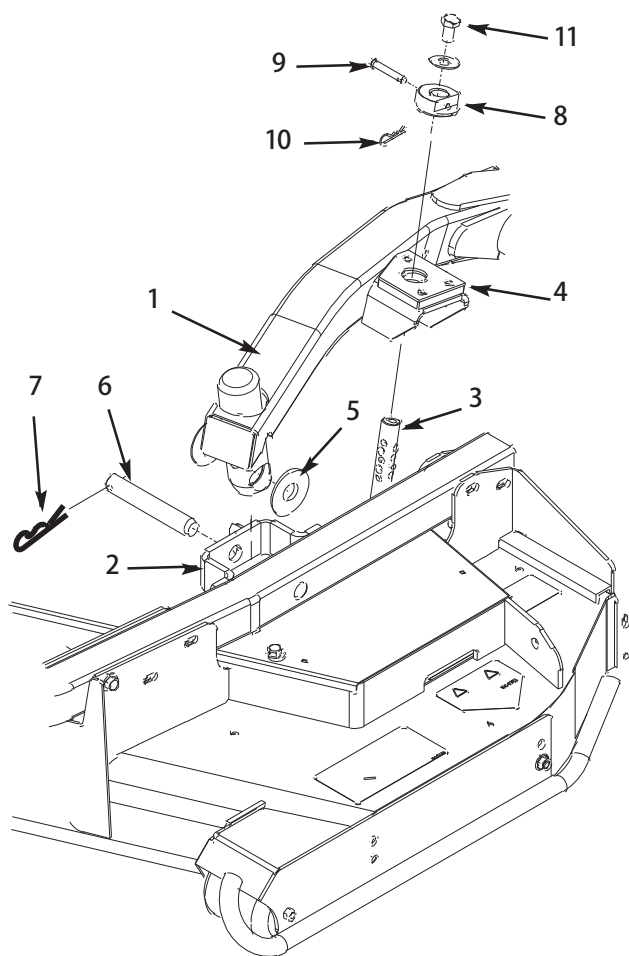


図 29

1. 昇降アーム
2. キャスタ・アーム・ブラケット
3. 刈高ロッド
4. 昇降アームのパッド
5. スラスト・ワッシャ
6. クレビス・ピン
7. ヘアピン・コッター
8. 刈高カラー
9. クレビス・ピン
10. ヘアピン・コッター
11. キャップスクリュー

6. もう一方の昇降アームにも同じ作業を行う。
7. トラクションユニットを始動し、カッティングユニットを上昇させる。
8. カッティングユニットの後部を押し下げ、昇降アームのパッドに刈高ロッドを通す。
9. 刈高ロッドに刈高カラーを取り付け、クレビス・ピンとヘアピン・コッターで固定する (図29)。クレビス・ピンの頭をデッキの前に向けておく。
10. 各刈高ロッドの上部に 1/2 x 3/4" キャップスクリューとワッシャを取り付ける (図29)。

キャスト・アームのブッシュの整備

キャスト・アームのチューブには上側と下側にブッシュがはめ込んでありますが、これらのブッシュは使用に伴って磨耗してきます。ブッシュを点検するには、キャスト・フォークを前後左右に揺り動かして見ます。ブッシュの中でキャストのシャフトがぐらついているようならブッシュの磨耗が進んでいると判断し、ブッシュを交換してください。

1. カッティングユニットを上昇させて、ホイールを床から浮かす。カッティングユニットが落下しないように支持ブロックでサポートする。
2. 各キャスト・スピンドルの上部についているトーショニング・キャップ、スペーサ、スラスト・ワッシャを外す。
3. キャスタ・スピンドルをチューブから引き抜く。スラスト・ワッシャとスペーサは、スピンドルの一番下に残しておく。
4. ピン・ポンチを使って、チューブの上または下からブッシュをたたき出す (図30)。他のブッシュも、同様にしてチューブから取り外す。チューブの内部をきれいに清掃する。

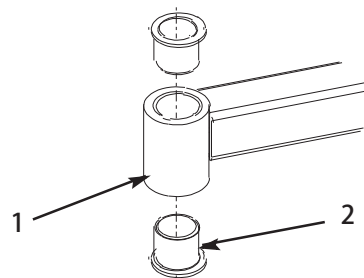


図 30

1. キャスタ・アームのチューブ
2. ブッシュ

5. 新しいブッシュの内外面にグリスを塗る。ハンマーと平らな板を使って、新しいブッシュをチューブに叩き込む。
6. キャスタ・シャフトを点検し、必要に応じて交換する。
7. チューブとブッシュにキャスト・シャフトを押し込む。スラスト・ワッシャとスペーサを、シャフトにはめる。シャフト上部にテンショニング・キャップを取り付けて全部のパーツを固定する。

キャスト・ホイールとベアリングの整備

1. キャスタ・ホイール・アセンブリをキャスト・フォークの間に保持しているロックナット (図31) を外す。キャスト・ホイールをつかんでおいて、キャップスクリューをフォークまたはピボット・アームから抜き取る。
2. ホイールのハブからベアリングを外して、ベアリング・スペーサを床に落とす (図31)。ホイール・ハブの反対側にあるベアリングを取る。

3. ベアリング、スペーサ、ホイール・ハブの内側の状態を点検する。磨耗したり破損したりしている部品は交換する。
4. キャスタ・ホイールを組み立てるには、まず、ホイールのハブにベアリングを押し込む。ベアリングを取り付ける時、ベアリングの外側のレース部分を押すように注意すること。
5. ホイール・のハブにベアリング・スペーサを入れる。もう一個のベアリングをホイール・ハブの空いている側に取り付けてハブ内部のスペーサを固定する。
6. キャスタ・フォークの間にキャスタ・ホイール・アセンブリを入れ、キャップスクリューとロックナットを通す。

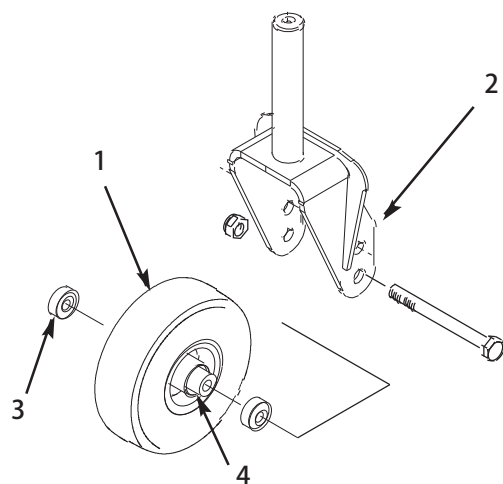


図 31

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. キャスタ・ホイール | 3. ベアリング（2個） |
| 2. キャスタ・フォーク | 4. ベアリング・スペーサ |

ブレードの変形を調べる

1. 平らな場所に駐車する。カッティングユニットを上昇させ、駐車ブレーキを掛け、走行ペダルをニュートラルに戻し、PTO レバーが OFF 位置であることを確認し、エンジンを停止しキーを抜き取る。カッティングユニットが落下しないように支持ブロックでサポートする。
2. ブレードが前後方向を指すように回転させる（図32）。カッティングユニットの天井から各ブレードの前端の切っ先までの距離を測る。測定値を記録する。



図 31

3. ブレードを半回転させてもう一方の切っ先を前に向ける。上記 2. と同じ位置で、カッティングユニットとブレードの切っ先までの距離を測る。上記手順 2 と 3 で記録した 2 つの測定値の差が 3 mm 以内に収まっていれば適正である。差が 3 mm よりも大きい場合には、そのブレードは曲がっていて危険であるから交換する；23ページ「ブレードの取り外し」を参照。

ブレードの取り外しと取り付け

ブレードが堅いものに当たった、バランスが取れていない、磨耗した、曲がったなどの場合には新しいものと交換してください。安全を確保し、適切な刈りを行うために、ブレードは必ず Toro 社の純正品をお使いください。他社のブレードを使用すると危険な場合がありますから絶対にやめてください。

1. カッティングユニットを一番高い位置まで上昇させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取る。カッティングユニットが落下しないように支持ブロックでサポートする。
2. ぼろきれや厚いパッドの入った手袋を使ってブレードの端部をしっかり握る。スピンドルのシャフトからブレード・ボルト、芝刈り防止カップ、ブレードを取り外す（図33）。

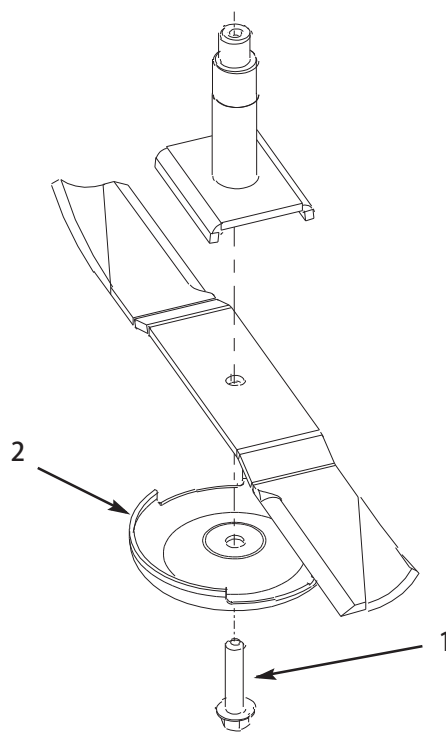


図 33

1. ブレード・ボルト
2. 芝刈り防止カップ
3. ブレード、芝刈り防止カップ、ブレード・ボルトを取り付け、各ブレード・ボルトを 85~110 ft.-lb (115~150 Nm = 11.8~15.2 kg.m) にトルク締めする。

重要 ブレードの立っている側（セール部）がカッティングデッキの天井を向くのが正しい取り付け方です。

ブレードの点検と研磨



危険



磨耗の進んだブレードや破損したブレードは、回転中にちぎれて飛び出す場合があります、これが起こるとオペレータや周囲の人間に多大の危険を及ぼし、最悪の場合には死亡事故となる。また、破損したブレードを修理すると安全規格を満たさなくなる恐れがある。

- ブレードが磨耗や破損していないか定期的に点検すること。
- 曲がったブレードを元に戻そうとしたり、欠けや割れの出たブレードを溶接で修理したりしないこと。
- 磨耗したり破損したりしたブレードは交換すること。

ブレードの点検や整備を行う際には2つの部分に注目してください：高品質の刈りを実現するためには、切っ先と、切っ先の反対側にある立ち上がった部分であるセール部の両方が重要です。セール部は、風を起こして草を真っ直ぐに立て、均一な刈りを実現するものです。しかしセールは使用に伴って徐々に磨耗してきます。そしてこの磨耗に伴って、切っ先が鋭く維持されていても、刈りの質は幾分か落ちてきます。草を引きちぎるのでなく、カットするためには、当然切っ先が鋭利でなければなりません。刈りあとを見て、切り口がささくれ立っていたり茶色に変色しているのは切っ先が鈍くなっている証拠です。このような状態が見られたら、ブレードを研磨してください。

- 平らな場所に駐車する。カッティングユニットを上昇させ、駐車ブレーキを掛け、走行ペダルをニュートラルに戻し、PTO レバーが OFF 位置であることを確認し、エンジンを停止しキーを抜き取る。
- ブレードの切っ先を注意深く観察、特に、直線部と曲線部が交わる部分をよく観察する（図34-A）。この、直線部と曲線部の交差域は、砂などによる磨耗が進みやすい部分なので、機械を使用する前によく点検することが必要である。磨耗が大きい場合には（図34-B）危険であるから交換する。
- 全部のブレードの切っ先を丁寧に点検する。切っ先が鈍くなっていたり欠けていたりした場合には研磨する。研磨は刃先の上面だけに行い、刃の元々の角度を変えないように十分注意する（図35）。ブレードの左右を均等に削れば、バランスを狂わすことなく研磨を行うことができる。

注：ブレードを取り外し、研磨機で研磨する。研磨できたら、ブレードを取り付け、芝刈り防止カップを取り付け、ブレード・ボルトで固定する；23ページ「ブレードの取り外しと取り付け」を参照。

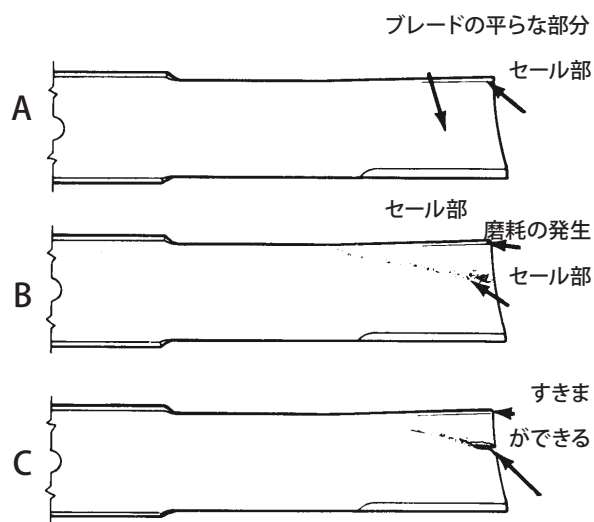


図 34



危険



ブレードの磨耗を放置すると、ブレードのセール部と平坦部との間に割れ目が発生する。（図34-C）この割れ目が拡大すると、最終的にはブレードがちぎれてハウジングの下から飛び出し、これがオペレータや周囲の人に重大な人身事故となる。

- ブレードが磨耗や破損していないか定期的に点検すること。
- 曲がったブレードを元に戻そうとしたり、欠けや割れの出たブレードを溶接で修理したりしないこと。
- 磨耗したり破損したりしたブレードは交換すること。

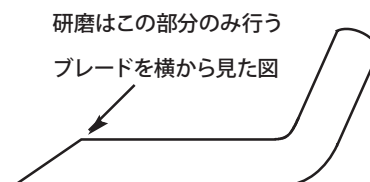


図 35

カッティングユニットのミスマッチを修正する

ブレード同士のマッチングが取れていないと、刈り込んだ時に筋が残ります。この問題は、どのブレードも曲がっていない、全部のブレードが同じ面で回転するように調整することで解決することができます。

- 長さ 1m の水準器を使って、作業場に平らな場所を探します。

2. 刈高を一番高い位置に設定する。13ページ「刈高の調整」を参照のこと。
3. 平らな床の上にカッティングユニットを降下させる。カッティングユニットからカバーを外す。
4. ブレードが前後方向を指すように回転させる。床面からブレードの切っ先までの高さを測る。測定値を記録する。同じブレードを半回転させて後方に回し、床面からこの切っ先までの高さを測る。2つの測定値が 3 mm の差の中に収まっていれば適正である。差が3 mm よりも大きい場合には、そのブレードは曲がっていて危険であるから交換する。全部のブレードでこの測定を行う。
5. 左右のブレードの測定値を、中央のブレードの測定値と比較する。中央のブレードが、左右のブレードよりも 10 mm以上低くはいけない。中央のブレードが 10 mm 以上低い場合には、手順6へ進み、スピンドル・ハウジングとカッティングユニット底部との間にシムを挟んで調整を行う。
6. シムを追加する場所にあるアウター・スピンドルからキャップスクリュー、平ワッシャ、ロックワッシャ、ナットを外す。スピンドル・ハウジングとカッティングユニットの底との間にシム (P/N 3256-24) を増減してブレードの高さを調整する。ブレード先端同士の高さの差が所定条件を満たすまで、この調整を続ける。

重要 1つの場所に入れるシムは3枚までとしてください。1つの穴に2枚のシムを入れても調整が完了しない場合には、隣の穴にシムを増減して調整を続けてください。

7. ベルト・カバーを取り付ける。

駆動ベルトの交換

ブレードを駆動しているベルトはスプリング付きのアイドラで張りを調整されており、非常に耐久性が高く、長期間にわたって使用することができます。しかし長期間のうちに必ず磨耗が現れてきます。磨耗の兆候としては：ベルト回転中にキシリ音が発生する、刈り込み中のブレードがスリップする、ベルトの縁がほつれている、焼けた跡がある、割れがある、などです。これらの兆候を発見したらベルトを交換してください。

1. カッティングユニットを床まで降下させる。カッティングユニットからベルト・カバーを外して脇に置く。
2. トルクレンチなどの工具を使ってアイドラ・プーリ (図36) をベルトから引き離してベルトの張りをなくし、ベルトをギアボックスのプーリ (図37) から外す。



図 36

1. アイドラ・プーリ



図 37

1. ギアボックス
3. スピンドル・プーリとアイドラ・プーリから古いベルトを外す。
4. 図38のように、スピンドル・プーリとアイドラ・プーリに新しいベルトを回しかける。

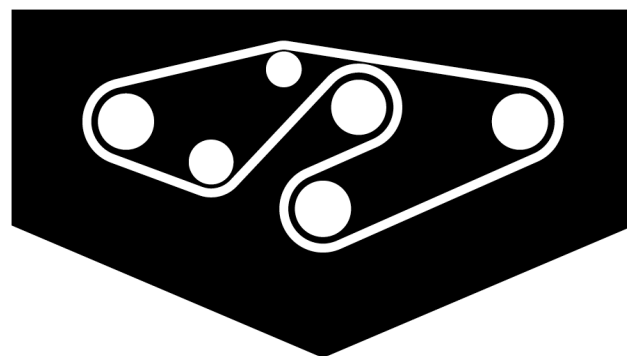


図 38

5. ベルト・カバーを取り付ける。

デフレクタの交換



警告



排出口を露出させたままでおくと、異物が飛び出てきてオペレータや周囲の人間に当たり、重大な人身事故となる恐れがある。また、ブレードに触れて大怪我をする可能性もある。

- モアを使用するときには、必ず、カバー・プレート、マルチ・プレートまたは集草装置を取り付けておくこと。
- デフレクタは、必ず下向きになっているのを確認しておくこと。

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを上昇させ、駐車ブレーキを掛け、走行ペダルをニュートラルに戻し、PTO レバーが OFF 位置であることを確認し、エンジンを停止しキーを抜き取る。カッティングユニットが落下しないように支持ブロックでサポートする。
2. デフレクタをピボット・ブラケットに固定しているロックナット、ボルト、スプリング、スペーサを外す（図39）。デフレクタを取り外す。
3. デフレクタのブラケットの間にスペーサとスプリングを入れる（図39）。スプリングの左側のフックを、デッキのエッジに引っ掛ける。

注：ボルトを取り付ける前に、スプリングの J フックが図39のようにデッキのエッジに取り付けられていることを確認してください。

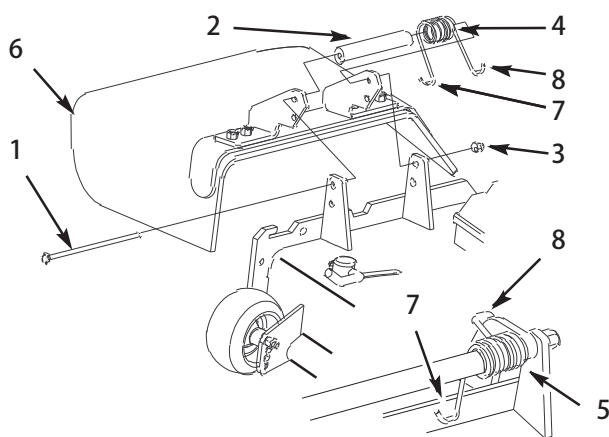


図 39

1. ボルト
2. スペーサ
3. ロックナット
4. スプリング
5. スプリングを取り付けた状態
6. デフレクタ
7. スプリングの左側のフック；ボルトの取り付け前にデッキのエッジに取り付けること
8. スプリングの右側のフック

4. ボルトとナットを取り付ける。スプリングの右側の J フックの端を、デフレクタに引っ掛ける（図39）。

重要

デフレクタがスプリングによって下向き位置になることが必要です。デフレクタを手で上向きにし、自力で下まで完全に下がることを確認してください。



Toro 一般業務用機器の品質保証

2年間品質保証

保証条件および保証製品

Toro 社およびその関連会社であるToro ワランティ社は、両社の合意に基づき、Toro 社の製品（「製品」と呼びます）の材質上または製造上の欠陥に対して、2年間または1500時間*のうちのいずれか早く到達した時点までの品質保証を共同で実施いたします。この品質保証の対象となった場合には、弊社は無料で「製品」の修理を行います。この無償修理には、診断、作業工賃、部品代、運賃が含まれます。保証は「製品」が納品された時点から有効となります。

*アワー・メータを装備している機器に対して適用します。

保証請求の手続き

保証修理が必要だと思われる場合には、「製品」を納入した弊社代理店（ディストリビュータ又はディーラー）に対して、お客様から連絡をして頂くことが必要です。

連絡先がわからなかったり、保証内容や条件について疑問がある場合には、本社に直接お問い合わせください。

Toro Commercial Products Service Department
Toro Warranty Company
8111 Lyndale Avenue South
Bloomington, MN 55420-1196
952-888-8801 or 800-982-2740
E-mail: commercial.service@toro.com

オーナーの責任

「製品」のオーナーは、オーナーズマニュアルに記載された整備や調整を実行する責任があります。これらの保守を怠った場合には、保証が受けられないことがあります。

保証の対象とならない場合

保証期間内であっても、すべての故障や不具合が保証の対象となるわけではありません。以下に挙げるものは、この保証の対象とはなりません。

- Toroの純正交換部品以外の部品や弊社が認めていないアクセサリ類を搭載して使用したことが原因で発生した故障や不具合。
- 必要な整備や調整を行わなかったことが原因で生じた故障や不具合。
- 運転上の過失、無謀運転など「製品」を著しく過酷な条件で使用したことが原因で生じた故障や不具合。
- 通常の使用に伴って磨耗消耗する部品類。但しその部品に欠陥があった場合には保証の対象となります。通常の使用に伴って磨耗消耗する部品類とは、ブレード、リール、ベッドナイフ、ティン、点火プラグ、キャスタホイール、タイヤ、フィルタ、ベルト、スプレーヤの一部構成機器たとえばダイヤフラム、ノズル、チェック・バルブなどを言います。

- 外的な要因によって生じた損害。外的な要因とは、天候、格納条件、汚染、弊社が認めていない冷却液や潤滑剤、添加剤の使用などが含まれます。
- 通常の使用にともなう「汚れや傷」。通常の使用に伴う「汚れや傷」とは、運転席のシート、機体の塗装、ステッカー類、窓などに発生する汚れや傷を含みます。

部品

定期整備に必要な部品類（「部品」）は、その部品の交換時期が到来するまで保証されます。

この保証によって取り外された部品は弊社の所有となります。部品やアセンブリを交換するか修理するか判断は弊社が行います。場合により、弊社は部品の交換でなく再生による修理を行います。

その他

上記によって弊社代理店が行う無償修理が本保証のすべてとなります。

両社は、本製品の使用に伴って発生する間接的偶発的結果的損害、例えば代替機材に要した費用、故障中の修理関連費用や装置不使用に伴う損失などについて何らの責も負うものではありません。両社の保証責任は上記の交換または修理に限らせていただきます。その他については、排気ガス関係の保証を除き、何らの明示的な保証もお約束するものではありません。商品性や用途適性についての黙示的内容についての保証も、本保証の有効期間中のみに限って適用されます。

米国内では、間接的偶発的損害にたいする免責を認めていない州があります。また黙示的な保証内容に対する有効期限の設定を認めていない州があります。従って、上記の内容が当てはまらない場合があります。

この保証により、お客様は一定の法的権利を付与されますが、国または地域によっては、お客様に上記以外の法的権利が存在する場合もあります。

エンジン保証についての注記：米国においては環境保護局（EPA）やカリフォルニア州法（CARB）で定められたエンジンの排ガス規制および排ガス規制保証があり、これらは本保証とは別個に適用されます。くわしくはエンジンメーカーのマニュアルをご参照ください。上に規定した期限は、排ガス浄化システムの保証には適用されません。くわしくは、エンジンマニュアルまたはエンジンメーカーからの書類に記載されている、エンジンの排ガス浄化システムの保証についての説明をご覧ください。

米国とカナダ以外のお客様へ

米国またはカナダから輸出された製品の保証についてのお問い合わせは、お買いあげのToro社販売代理店（ディストリビュータまたはディーラー）へおたずねください。代理店の保証内容にご満足いただけない場合は輸入元にご相談ください。輸入元の対応にご満足頂けない場合は本社へ直接お問い合わせください。